

防災意識を高め、備えを強化しよう

9月1日は関東大震災が発生した日であり、地震や台風などの災害について認識を深め、備えを強化する「防災の日」とされています。

この機会に一人一人が防災対策を見直しましょう。

防災力を高めるために

自分の命は自分で守る(自助)

災害が発生したときに的確な行動が取れるよう、地域や職場などの防災訓練に積極的に参加して防災行動力を高めましょう。

助け合いで地域を守る(共助)

災害発生時は、地域の人たちが互いに協力して助け合い、被害を最小限に抑えることが大切です。障がいのある人や要介護認定を受けた人、高齢者など、災害時に配慮を必要とする人を区や自治会、事業所などが協力して気遣うなど、普段からコミュニケーションを取り、いざというときには支援しましょう。

災害発生時の心得

○身やみに移動しない
○身の安全を確保し、職場や集

客施設など、安全な場所にとどまる

○災害用伝言サービスにより、家族の安否などを確かめる
○交通情報や被害情報などを入力する

日ごろから準備をする

○携帯ラジオや地図を持ち歩く
○飲料水や食料、スニーカー、懐中電灯、手袋などの非常持ち出し品を、最低3日程度の避難生活に必要な量で用意する
○家族と安否確認の方法、集合場所、帰宅経路の状況を確認しておく

警戒レベルの意味を正しく理解

風水害の危険が迫ってきたときには、危険度に応じた「警戒レベル」による避難情報が発令されます。避難情報はテレビ、防災行政無線、防災メール、市



旭市ハザードマップ



防災メールの登録



旭市公式LINE

公式LINEなどでお知らせします。

市では、土砂災害・津波・洪水ハザードマップを作成しています。ハザードマップで自宅の

警戒レベル	状況	住民が取るべき行動	行動を促す情報
5	災害発生または切迫	命の危険 直ちに安全確保	緊急安全確保

警戒レベル4までに必ず避難

4	災害の恐れ高い	危険な場所から全員避難	避難指示
3	災害の恐れあり	危険な場所から高齢者などは避難	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報(気象庁)
1	今後気象状況悪化の恐れ	災害への心構えを高める	早期注意情報(気象庁)

安全性を確認し、自宅以外に避難すべきか考えてみましょう。

自主防災組織の活動を支援

「自分たちのまちは自分たちで守る」など、地域の自衛意識と連帯感で結成された組織を自主防災組織と呼びます。市では、災害発生時に重要な役割を担う自主防災組織の結成と活動に、補助金を交付しています。

対象事業

防災訓練や研修会の実施、防災リーダーなどの人材育成補助額／事業に要した費用の3

分の2に相当する額(千円未満切り捨て)で10万円まで

防災用資機材などの購入補助額／自主防災組織の設立時に購入する場合は、費用の全額(千円未満切り捨て)で20万円まで

申請方法

総務課にある申請書に必要事項を記入し、必要書類を添えて提出してください。

申し込み・問い合わせ先

総務課地域安全班

☎ 62・5311

津波にも備えよう

津波の恐ろしさ

津波による浸水が30cmでも、人は流される恐れがあります。1m(100cm)を超えたときの死亡率は、ほぼ100%といわれています。

津波が見える前に、素早く避難

沿岸部などで強い揺れや長い揺れを感じたときや、警報が出た場合には、海から離れて高台や高い建物に避難してください。

津波は何度もやって来る

第二波、第三波に警戒しましょう。第一波よりも高いこともあります。警報などが解除されるまで安全な場所にとどまりましょう。

